特集１

常陸大宮市
有機農業への取り組み

市では、令和４年度から有機農業を推進しています。今月号では、世界や日本における有機農業の現状や、有機農産物はどのようなものなのかをお伝えするとともに、市内で先駆者として有機農業に取り組む人々に話を伺いました。

世界でも日本でも広がる有機野菜

世界の有機野菜を取り巻く状況を見ると、需要、供給ともに年々増加しています。有機食品売り上げは増加しており、2020年では、約14.2兆円の市場規模があります。さらに、需要の拡大に合わせ、生産者側も拡大を見せており、世界の有機農業の取り組み面積は、1999年から2020年の間に約6.8倍に拡大しています。

日本でも有機野菜を広げる取り組みを行っています。平成18年には「有機農業の推進に関する法律」が施行され、それに基づき、全都道府県が「有機農業推進計画」を策定しました。さらに、令和３年には、持続可能な食料システムの構築に向けて「みどりの食料システム戦略」を策定し、2040年までに有機農業技術の確立、2050年までに日本の田畑に占める有機農業の取組面積の割合を25％に拡大するという目標を定めています。推進の効果もあり、日本国内での市場規模は2009年に1,300億円であったのが、2022年には2,240億円にまで成長しました。また、有機農業の取組面積は過去10年で約５倍に拡大しています。

出典　農林水産省「有機農業をめぐる事情」（令和５年６月）

みどりの食料システム戦略（農林水産省）

2023年

2040年
目標
農業者の多くが
取り組むことができる
有機農業技術の確立

2050年
目標
有機農業の取組面積の
割合を25％に拡大

知っていますか？

有機農業のあれこれ

そもそも「有機農業」って？

化学肥料、化学農薬を使わずに農産物を栽培するのが有機農業です。ただし、全ての肥料・農薬を使えないわけではなく、農林水産省が有機農業で使用可能と認めた堆肥や天然由来の成分で作られた肥料・農薬※は使うことができます。

有機農業は、一般的に行われている栽培方法と比較して「よく実らない」「虫や雑草対策に手間がかかる」などといったイメージがあるかもしれません。しかし、有機農業の栽培技術は確立しつつあります。さらに、豊かな土を育むという大きなメリットもあります。環境負荷低減に大きな影響力を持つ有機農業。まずは知ることから始めてみませんか？

※作物に重大な損害が生ずる危険が急迫している場合のみ

有機農産物の証「有機JASマーク」

農林水産省に認められた登録認証機関の検査を受け、認証された田や畑で作られる農産物が「有機農産物」として販売されます。有機農産物にはその証として、パッケージなどに有機JASマークが入っています。

▲有機JASマーク

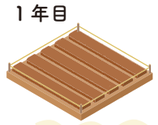
有機JASマークを付けて販売するまで

有機的な栽培を始めたからといって、１年目に栽培した農作物を有機農産物として販売することはできません。正式に有機ＪＡＳマークを付けて販売するためには、最短で２年の月日がかかります。

まずは、１年間、有機農業の基準に沿って農地を管理することで、有機の認証を受けるための申請を出すことができます。有機農業２年目に、登録認証機関の検査を受けて合格となれば、「転換期間中」と表示した有機ＪＡＳマークをつけて販売することができます。そして、３年目に正式な有機ＪＡＳ認証を取得することで、有機ＪＡＳマークをつけて販売ができるようになります。

市内の一部スーパーや道の駅などでも有機農産物の取り扱いがありますので、ぜひ有機ＪＡＳマークに注目してみてください。

「有機JASマーク」の認証まで

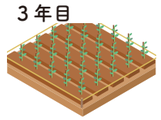
１年目

化学肥料・農薬を使わず、
土に残る化学的な成分を半減させる

▼

２年目

「転換期間中」と表示した
有機JASマークを付けて販売可能に

▼

３年目

正式な有機JAS認証を取得し、
有機JASマークを付けて販売可能に

茨城県内有数の有機農業先進地である常陸大宮市

有機農業の取り組みは、「子供たちに有機野菜を食べてもらいたい」という思いからスタートしました。JA常陸の協力のもと、令和４年から有機野菜の栽培を本格的にスタートさせ、学校給食で使用しやすい作物を中心に、種類や収穫量を増やしています。

また、三美地区、鷹巣地区に有機農業モデル団地を設置し、「茨城県環境負荷低減事業活動の促進に関する基本計画」における特定区域としました。この特定区域を中心に、市をあげて有機農業を推進しています。

「自然」へのチャレンジ

有機農業に取り組む人々

株式会社JA常陸アグリサポート　寺門裕士さん

(株)JA常陸アグリサポートでは、市の「子供たちに有機農業の米や野菜を食べてもらいたい」という理念に賛同し、令和４年度から有機農業への取り組みを始めました。そんな(株)JA常陸アグリサポートで有機米栽培を任されているのが寺門裕士さんです。有機米栽培は、今年度が初挑戦で、周りの農家からも興味を持ってもらえているといいます。「通常より田の水を深くすることで、雑草が育ちにくくなります。こまめに水の深さを確認し、十分な水量を保つことに気を遣いました」と寺門さん。今後は、給食で提供する米を全量有機米にできるよう生産数を増やしていきたいと話しました。

▼雑草がなくきれいな田は、寺門さんの今までの経験と新たに得た知識を実行する力の賜物です。

藤田 正美さん

今年、80歳を迎えるなか、果敢に有機米栽培に挑戦しているのは個人で農業を営む藤田正美さんです。挑戦のきっかけとなったのは、市職員からの後押しでした。自分の田が有機米栽培に向いていると聞き、それならばやってみようと栽培への挑戦を決意しました。有機米栽培を先駆けて行っているNPO法人民間稲作研究所での研修にも赴き、知識習得も行ったパワフルな藤田さん。有機農業をやってみた感想として「肥料や農薬の費用が浮いたのが一番大きかったですね。米も通常の育て方と同じレベルで実っているんです」と話してくれました。また、「自分をきっかけに挑戦する人が増えてくれれば嬉しいです」と有機農業の輪を広げたい思いを話してくれました。

▼「実がふっくらとして良い出来だ」と話してくれました。このお米を子供たちにおいしく食べてもらえるのが楽しみです！

株式会社カモスフィールド　横山慎一さん

本社のある笠間市にとどまらず、常陸大宮市へ拠点を拡大することを決めた(株)カモスフィールド。三美地区にある農場で農場長を務めるのが横山慎一さんです。横山さんが有機農業に携わるようになった理由を「おいしい野菜を作るろうとしたら、有機農業に行きついたんです」と話します。そんな横山さんが一番手をかけているのが土作りです。「微生物のお世話係」として、微生物を元気にすることで、作物にとって、過不足のない、適切な栄養が届く土を作っています。「今では、自社で栽培した有機野菜が通常の栽培方法で作られた野菜と同じ値段で提供できるようになりました。今後、さらに方法を確立させて、自分たちを真似してくれる方々を増やしていきたいです」と結果に満足せず、ストイックに取り組む横山さんの真剣な思いを聞くことができました。

▼微生物のえさとして、きのこ栽培で使い終わったおがくずや中身を取り終えた栗の皮などを使い、環境面でもコストにもやさしい栽培を行っています。

有機野菜はこんなところにも！？

市の有機農業の取り組み

学校給食への導入

令和４年から学校給食で農薬や化学肥料を使わずに栽培した野菜の使用を開始し、昨年はジャガイモやニンジンなど合計４トンの野菜を給食で提供しました。

今後も米は有機米100％、野菜はさらに導入量の増加を目指して取り組んでいきます。

◀給食で提供された「さつま汁」

▶給食で提供された「有機こまつなのおひたし」

有機野菜の販売・加工

道の駅常陸大宮～かわプラザ～では市内で栽培した有機野菜の販売コーナーを設けています。また、かわプラザ内の「Gelato & Smoothie」や茨城県庁内のカフェ「PANDA MARKET」ではニンジンを使用したジェラートを販売しています。

▶道の駅常陸大宮～かわプラザ～の有機野菜販売コーナー。

◀ニンジンを使用したジェラート。オレンジ色が目を引き、ニンジンの風味を楽しむことができます。

今後も取り組み続々！

11月５日開催！

常陸大宮市有機農業シンポジウム

今年度の有機農業推進のひとつとして、「常陸大宮市有機農業シンポジウム」を開催します。市のオーガニック給食の取り組みについても知ることができる機会です。多くの皆様のお申し込みをお待ちしています。

▲申込はこちらから

東京でも常陸大宮市の有機野菜を知ってもらいたい！

茨城アンテナショップへ出展予定

12月には、東京都銀座にある茨城県のアンテナショップ「IBARAKIsense」で、常陸大宮市の有機野菜の出展を予定しています。有機農産物の販売はもちろん、有機農産物を使用したカフェメニューも考案中！

詳細は市ホームページなどでお知らせする予定です。

農家さんの技術や常陸大宮市の取組を紹介中！

常陸大宮市農林振興課 公式Instagram

農作業一つひとつの意味など、普段知ることのできない農業の情報を動画で発信中！ぜひのぞいてみてくださいね！

NOURIN.HITACHIOMIYA

問 農林振興課農政グループ　☎52-1111(内線207)